

北区の復興



DZ17013 後藤 隆修

ー 園舎、ストリートカルチャーを用いて ー

Keywords

少子高齢化 人口減少 認知度問題
園舎 ストリートカルチャー スケートボード

1. はじめに

筆者は2016年から上京し、北区、豊島区、中央区の3つの区に在住経験がある。その中でも「北区」は、簡素な住宅街で穏やかな街並みであった。一方で北区は多くの問題を抱えている。少子高齢化や税収減、認知度の低さが挙げられる。これらの問題を「ストリートカルチャー」と「園舎」を組み合わせることで解決していく。

2. 研究背景

2.1 東京都北区の抱える問題

(1) 少子高齢化、人口減少

北区は表1に示すように、少子高齢化が進行している。また、北区の総人口は1967年以降、減少傾向にあり、1967年の総人口(436662人)と2018年の総人口(348030人)を比較すると88632人減少している。北区の調査によると、北区の総人口は2035年には30万人を下回り2060年には23万人程度まで減少し、北区の高齢化率は40%を超える。北区の人口問題をそのまま放置した場合コミュニティの衰退や税収減、地域への帰属意識の希薄化といった問題が起きる。

表1 昭和56年から平成30年の人口の変化(23区内中)
(東京都北区ホームページより作成)

北区	昭和56年	平成30年
年少人口 (少ない方から)	19.1%(9番目)	10.2%(6番目)
高齢者人口 (多い方から)	8.9%(15番目)	25.3%(1番目)

(2) 北区の低認知度

表2に示すように北区は、東京都23区の中で最も知名度がない。原因として、北区には観光地や若年層向けのスポットが無く、他の地域から足を運んでまで行く場所がないからだと考える。今後、北区の知名度が上がらなければ北区の人口は減少し続ける。

表2 東京都23区で知名度がない区
(東京都北区ホームページより作成)

ランキング	区名	(%)
1番	北区	33%
2番	豊島区	10.5%
3番	江戸川区	6.3%

2.2 ストリートカルチャー

(1) ストリートカルチャーの歴史

1970年代にニューヨークで生まれたヒップホップ文化や、カリフォルニアで生まれたスケートボード文化などに根差すカルチャーである。

(2) 現在のストリートカルチャー

ストリートカルチャーの一つであるスケートボードは世界的に競技人口が増え、2020年東京オリンピックから正式種目として採用された。また、世界的に有名なアパレルブランドのルイ・ヴィトンはストリートカルチャー要素を取り入れるために、ストリート界を中心に支持されてきたヴァージル・アブローを新デザイナーに就任した。このようにストリートカルチャーは、スケートボード、ストリートファッションを筆頭にアメリカだけに留まらずあらゆる国に広まっている。

(3) 日本でのストリートカルチャー

近年、様々なカルチャーをミックスした独自のストリートカルチャーが東京を中心に発展している。特にスケートボードをする若者が増加している。しかし日本でのストリートカルチャーのイメージが悪く、スケートパークが年々減少している。スケートボードの場が公道に変化したことにより東京のあらゆる場でスケートボードの取り締まりが強化された。筆者は日本でのストリートカルチャーは生きづらいため、改善したいと考える。

3. 研究目的

北区の少子高齢化や人口減少、認知度の低さの改善を目指す。また、それに加えて日本でのストリートカルチャーを生きやすくする。

3.1 1日で2つの姿を持つ

対象敷地に昼と夜で全く違う用途の何かを作ることを提案する。1つの建物で2つの用途を補うことによって収益性の増加も期待できる。

(1) 昼間の園舎

昼間は園舎として使用する。魅力的な園舎を作ることによりファミリー層を増やすことができる。ファミリー層が増えれば年少人口も増え、年少人口が増えれば、将来北区に定住する人が増え、北区の人口減少の解決につながるかと考えた。

(2) 夜間のストリートカルチャー

夜間はストリートカルチャーの場（スケートパーク）として使用する。スケートパークを設ければ10代から40代の若年層の人々を呼び寄せることができる。その年代の人達が北区を知り、北区の認知度が上がることが期待出来る。北区には若年層にとっての観光地や遊び場が少ない。このような問題もこのストリートカルチャーの場が先駆けとなって解決していく。また、日本におけるストリートカルチャーの生きづらさの解決にもなる。

4. 敷地

4.1 敷地選定

図1の通り、敷地周辺には十条駅、東十条駅、王子駅がある。3つの駅に囲まれた敷地はとてもアクセスが良く他の区からも訪れやすい。また、住宅街から外れた場所であることや、東側に隣接している道路の交通量も少ないことも敷地選定の理由である。

4.1 敷地詳細

敷地は、東京都北区十条台1丁目2にある「いなりプレーパーク」という公園とする。敷地面積は7892㎡。敷地の南側は北区中央図書館に面していて、南西側には十条駐屯所がある。この敷地では、2001年9月から「北区で子供の遊び場をつくる会」というボランティア団体が月に4～5回プレーパークを開催しているが、この活動以外の日は公園利用者がとても少ない。

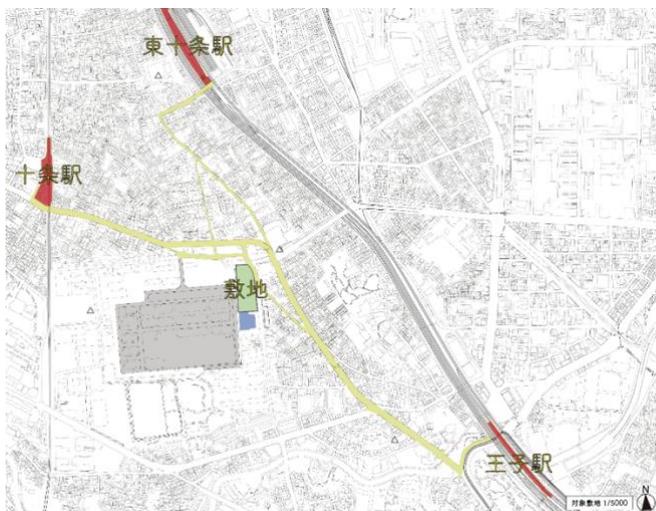


図1 敷地周辺地図

5. 設計趣旨

園舎とスケートボードパークを同じ建物にするためには安全性と調和が大切である。安全面は建物の高さのズレと利用時間のズレを用いた。1階には園舎、屋上にはスケートパークとした。園舎内の屋内遊戯室は他の部屋よりも1000m高いのを利用し、室内遊戯室の屋上は園庭を設置した。次に時間のズレは園舎は15時に閉まると設定し、預かり保育は、17時までとした。スケートパークは15時からの利用。15時から17時の間は預かり保育とスケートボードパークの利用時間が被ってしまうため預か

り保育室とパークの入り口を逆側に設定した。調和面においては、スケートボードパークのセクションを大きさを変えて園児の遊具に用いる。

5. プログラム

敷地面積：7892㎡

主要用途：幼稚園、スケートパーク

計画面積：3512㎡

建築面積：幼稚園1750㎡

スケートパーク 1750㎡

保育室（3歳児, 4歳児, 5歳児）49㎡×6 計294㎡

預かり保育室80㎡

図書ルーム14㎡×2 計28㎡

アトリエ（自由ルーム）14㎡×2 計28㎡

職員室90.5㎡

園長室8.4㎡

休憩室 計34㎡

会議室 計44㎡

保健室28㎡

ランチルーム117㎡

調理室51㎡

屋内遊戯室（ホール）260㎡

屋外遊戯室776㎡



写真 敷地周辺地図

6. 展望

園舎とスケートボードパークによって北区の認知度が上がり少子高齢化が改善されると共に日本におけるストリートカルチャーが生きやすくなることを願う。

参考文献

- 1) 東京都北区ホームページ <http://www.city.kita.tokyo.jp>
- 2) 新建築データ <https://shinkenchiku-data.com>
- 3) 新建築：2011年7月号68ページ みやしたこうえん
- 4) 国土地理院：基盤地図情報
- 5) 文部科学省：幼稚園施設整備指針



園庭

駐車場

十条方面から

王子方面から

東十条方面から

